

# 基本施策評価シート

|          |
|----------|
| 基本施策最終評価 |
| <b>B</b> |

基本施策通し番号 3  
 基本施策 活力あふれるスポーツ社会の実現  
 構成施策

| 施策番号 | 施策名          | 施策最終評価 |
|------|--------------|--------|
| 施策1  | 生涯スポーツの推進    | B      |
| 施策2  | 競技力の向上       | B      |
| 施策3  | スポーツ施設の整備と充実 | B      |

## 成果指標

| 指標           | 内容                       | 令和2年度<br>目標 | 令和元年度末<br>実績 | 単位 | 令和元年度の成果の検証   |
|--------------|--------------------------|-------------|--------------|----|---|
| みんなでスポーツ参加者数 | スポーツ教室「みんなでスポーツ」への年間参加者数 | 2,500       | 2,215        | 人  | スポーツ振興室及び公民館において、障害者を含む幅広い市民を対象にしたスポーツ教室を開催し、参加者数は目標には達しなかったものの、前年度より200人余り増えた。   |
| スポーツ施設の利用者数  | 体育館などの年間利用者数             | 300,000     | 255,833      | 人  | 施設利用者が目標に達せず、昨年度よりもさらに減少した。要因として、年度末に新型コロナウイルスの影響で施設の利用休止等を行ったこと、雪不足のためDAINOUスポーツランドの利用がほとんどなかったことなどがあるが、利用者数は年々減少する傾向にある。エキサイト広場利用者の減少要因として、一時期よりも学生合宿者数が減少し、また近年、大規模な大会が開催されていないことなどが考えられる。 |

## 後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

|    |  |
|----|--|
| 現状 | スポーツは、勝敗を競うだけでなく、人とのふれあいによる喜びや生きがいをもたらすとともに、日常生活におけるストレス解消や生活習慣病の予防など健康維持においても、大きな役割を果たしている。   |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>近年、スポーツ・レクリエーションに対するニーズは多様化してきており、市民が自主的かつ主体的に活動できる環境の整備や施設の充実が求められている。</li> <li>障害のある人も活動に参加しやすいよう配慮するなど、誰もがスポーツに親しむことができる環境づくりが必要である。</li> <li>スポーツ少年団の団員数、中学校の部活動数及び競技スポーツ人口の減少、指導者の高齢化などによる競技力の低下が危惧されており、選手層の拡大やジュニア期からトップレベルまで、一貫した指導体制を整備する必要がある。</li> </ul> |

## 社会情勢・市民ニーズの変化

・少子化や高齢化に対応した地域コミュニティの再生と活性化、高齢者の生きがいづくりの観点からも市民のスポーツへの期待は大きい。  
 ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、国民のスポーツへの関心が高まっている。また、障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害者のスポーツ参加を支援するため、指導者育成等の環境整備の必要性が一層高まっている。  
 ・令和2年3月に第2次福井県スポーツ推進計画が策定され、「1県民1スポーツ」「子どもの体育・スポーツ活動」「トップアスリートの養成」の3つの基本施策に基づく具体的な施策により更なるスポーツ振興やスポーツを通じた交流人口の拡大につなげるとしている。  
 ・2023年春の北陸新幹線・敦賀開業の機会を生かし、スポーツを通じた交流人口の拡大等による地域活性化の推進役として、令和2年3月に「福井県まちづくり推進機構」が設立された。

## 現在の「現状」と「課題」

|    |  |
|----|--|
| 現状 | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、働き方改革が進むことで働く人たちの日常生活におけるスポーツに親しむ機会が多くなり、スポーツニーズがさらに多様化することが予想される。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の発生により、生活様式が制限され、スポーツ振興の阻害要因となっている。</li> </ul>   |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>市民のスポーツを通じた健康づくりを進める必要がある。そのため、既存の事業内容の見直しなどにより、より多くの市民の継続したスポーツ実践につなげていかなければならない。</li> <li>各施設・設備の老朽化が見られるため、エキサイト広場をはじめ、スポーツ団体等の充実した施設利用に供するため計画的な修繕等を行う必要がある。</li> <li>コロナ禍において、スポーツ施設では利用者の理解・協力を得ながら感染防止対策を徹底する必要がある。また、スポーツイベント等を開催するに当たっても、事業内容の見直しを含めた様々な対応が必要である。</li> </ul> |

## 基本施策の「成果」

|    |  |
|----|--|
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯スポーツの推進では、スポーツ教室や越前大野名水マラソン大会などの開催によりスポーツに親しむ機会を提供することができた。</li> <li>競技力の向上では、スポーツ団体等への支援などにより、多くの競技において全国大会等への出場につながった。</li> <li>スポーツ施設の整備と充実では、エキサイト広場総合体育施設に新しいトレーニング機器を導入したことにより利用者の大幅な増加につながった。</li> </ul> |
|----|--|

## 改善点

・第2次大野スポーツ推進計画策定のため市民アンケートを実施し、市民意識の調査、各機関・団体の課題等の洗い出し・分析を行い、より効果的な施策を検討する。  
 ・ラジオ体操の一層の普及を図るため、特別巡回ラジオ体操・みんなのラジオ体操会を招へいする。  
 ・健康づくりへの市民の参加を促進するため、スポ・レク祭でノルディックウォークなどの新メニュー追加を検討する。  
 ・施設の利用促進につながるよう計画的な環境整備(トレーニング器具の計画的導入、老朽箇所の修繕など)を行う。  
 ・B&G海洋センターにおいて、新たな海洋性レクリエーションの体験(カヌー教室参加者等によるSUP、水上スキー体験)を通して、自然体験活動の機会を提供する。